

いよいよ中間試験

「勉強を一生懸命してきたことが、お笑い芸人としての個性になっている」

(読売新聞 10.19)

と言ったのはオリエンタルラジオのお笑い芸人、中田敦彦。

慶應義塾大学に現役合格。私大のトップ大学だ。

「16 歳」の頭を極限まで使った者は将来の土台を築くことができる。

57 歳の今だからよくわかる。



■先週の放課後、相当数の者が教室で勉強していた。どのクラスも電気がついている。未来ある若者のがんばる姿はいい！

おもわずカメラ持参で 1-1 の教室へ入ると、阿部弘幸、大場公介(写真)ら 10 数名が残って勉強していた。

6 時過ぎに 3 階から降りてきた平井晃太は、「先生、図書室で勉強していると、3 年生の受験生がいるのもものすごく緊張感があります！」と言っていた。

緊張感 これだ！

■ここ数年、3 年生の道教育大志望者の小論文指導を担当してきた。面接指導も毎年おこなっている。

先週、面接指導の場で「やる気が全然伝わってきませんよ。何が何でも合格したいという気持ち、本当にあるの？」と静かに聞いた。すると泣き出す女子がでる。

■過去、教育大受験者(推薦)で平均評定 4.9 でも落ちた。この日の子は 4.7。が、アピール力がないと評定が高くても落ちる。

企業のプロ面接官は 0.5 秒で判定できると本で読んだ。『人は見た目が九割』の続編。人間のやる気は瞬時にわかるのだ。

この日面接した子は、定員 5 名に志願者が 19 名の学科。よって、14 名が落ちる。受験はサバイバルなのだ。

本当にできるやつは、馬力が違う

天下の慶應義塾大学に現役合格した中田敦彦が言ったことばだ。

オホーツクから峠を超えた向こうの人達は馬力が違う！

全国で学力調査をした

小学 6 年と、中学 3 年を対象。

北海道は全国的に平均値は下まわる。

47 都道府県中 46 位だ。(文科省発表)

46 位	北海道	正解率 59.9 %
------	-----	------------

その北海道の中でも、オホーツク管内は常に道内平均値を下まわっている。

■道内 14 支庁管内比較 A = 基礎 B = 発展

○オホーツク管内小学校

国語 A : 13 位 B : 14 位

算数 A : 13 位 B : 13 位 (14 位 = 最下位)

○オホーツク管内中学校

国語 B 以外はすべて道内平均以下

(『学力危機北海道』読売新聞社編)

柏陽生にとっての大学受験とは、日本で最低レベル地域の子が、いきなり全国大会にできるようなもの。

■北海道新聞(11.18 付)で常に上位の「秋田県」との比較が出た。(上段が小 6、下段が中 3)

秋田と北海道の比較表(一部抜粋)

	全国	道内	秋田
授業以外で平日 1 時間以上勉強	100	79.9 90.5	114.6 112.5
家で学校の復習をしている	100	132.9 120.3	285.2 257.6

ここの違いがスゴイ



外は真っ暗
放課後の 1 組
教室 →

友達がいって 学校へ行けて 毎日が笑える こんな幸せ なこと他にがあるか？

5日・6日と高校の入学試験があった。試験監督をしながら緊張気味の中学生を見ていると、今から38年前のことがよみがえってきた。

大学入学当初、私は教師になるつもりはなかった。そんな私の気持ちを変えたのが5週間おこなった「教育実習」先の中学生達だった。

その時、バリバリのちょうどハタチ。決定的なことが実習最後の日にやってきた。実習仲間男女7人に生徒達は、

サインを求めて長蛇の列をつくった。

その時間が1時間、2時間と過ぎていく。若く未熟な私達には、目の前の生徒達の行動が理解できなかった。教師達が中学生を帰宅させてくれた。

私達実習生7人は最後に、誰もいない職員室に入った。歩くとみしみしと床の音だけが響く。

そして背筋伸ばし、みんなで唄った。

「鶯のからまーるちゃペーるの・・・♪」
こぼれ落ちる涙を拭おうともしなかった、20歳の男4人に女3人だった。

やっとタクシーで帰ろうとした時だ。まだ残っていた生徒達が、

私達のタクシーの後を手を振りながら走って追いかけてきたのである。

今振り返ると、青春TVドラマの主人公を地でいっている。

薄暗いアパートに戻ってから、驚くほど涙が出て止まらなかった。私の人生で一番長く泣いたのがこの時。声を出して泣いた。

今にして思うと、私はこの時初めて教師になることを決めたのだと思う。

そう心に決めてからこの3月で38年が過ぎる。何よりも生徒達といっしょにすることが楽しくて「担任」にこだわってきたが、このクラスが最後の担任となる(と思う)。数えて29回目の担任。

最後に本当にいいクラスを持てたと思っっている。

3月20日は 1年1組解散行事 合唱コンクール

- 実行委員 平井晃太
- 指揮者 裏あかり、板垣風花
- 伴奏 門脇奏美
- 課題曲 柏陽高校校歌
- 1年1組・自由曲 『時を超えて』

作詞・作曲の梅野知子(とがのともこ)さんからのメッセージ。

この曲をつくろと思ったのは、10代という多感な時期に、迷ったり悩んだり傷ついたりしながらも少しずつ成長していく生徒たちの姿に、私自身が熱い感動を覚えたことがきっかけでした。そして、自らの意志で未来を切り拓いていこうとしている彼らへのエールを、この曲に託しました。

(以下省略)

【銀賞をとった後の記念撮影・いい顔してる】↓



